

～被災地の今を学び、未来へつなぐ～

野田村自然エネルギー学校

7月1日(金)13:00～2日(土)16:00 2016・夏

だらすこ工房 (岩手県九戸郡野田村大字野田7-116)

参加費:一般12,000円、村民無料 (交通費、懇親会費は別途実費)



東日本大震災で大きな津波被害を受けた岩手県野田村。約5年が経過した村では、仮設住宅は大幅に縮小し、住宅の自主再建や災害公営住宅への入居が進んでいます。最大の課題であった住宅問題が一区切りしつつある今、改めて「仮設」ではない持続可能な「ムラ(コミュニティ)」の創生が模索されています。野田村の復興の絆でありシンボルでもある「だらすこ市民共同発電所」にも、新たなムラ社会のなかで、大きな役割が求められています。その期待に応えるべく、今年も自然エネルギー学校を開催。村のエネルギー生産者と再エネへの参加者を増やし・つなぐ「太陽光発電の屋根貸し制度」のプランづくりや、災害時のライフライン&買取拒否問題を解決する「独立型太陽光発電&蓄電池」のDIYワークショップを行います。また、今春、村に完成したバイオマス発電所施設の見学や、平成28年熊本地震の被災調査報告など、最新の話題提供もあり、盛りだくさんの内容です。初夏の野田村、ここでしかできない体験や学びに出会いに来てください!



■スケジュール (予定)

7月1日(金) 13時現地集合 (陸中野田駅、久慈駅からの送迎も予定)

13:00～ 開会の挨拶/開催趣旨の説明/自己紹介

13:30～ ワークショップ『独立型太陽光発電DIY&バッテリー再生技術の習得』

18:00～ 野田村を知る『幕末の三陸沿岸で住民が立ち上がった三閉伊一揆』

18:45～ 夕食&交流会

7月2日(土)

8:00～ 朝食

8:30～ 講義&ワークショップ『屋根貸し制度による新たな野田村復興と創造』

11:00～ 報告『熊本地震調査と5年目の野田村を語る』

12:00～ 昼食

13:45～ フィールドワーク『被災の爪痕と復興の現状』

(被災現場、建設中の巨大堤防、充電ステーション、野田バイオマス発電所見学ほか)

16:00 解散 陸中野田駅



お申し込み

6月27日までに、「氏名」「所属」「当日の緊急連絡先」「現地までの移動手段」を記載の上、電話・FAX・メールにてお申し込みください。

PV-Net市民ファンドサポートセンター (太陽光発電所ネットワーク内) 担当: 加藤

TEL: 03-5805-3577 FAX: 03-5805-3588 Email: info@greenenergy.jp

主催:野田村自然エネルギー学校実行委員会 後援:岩手県、野田村(予定)

～ 講座プログラム ～

DIYワークショップ 独立型太陽光発電

電力自由化の進展とFIT制度の縮小が太陽光発電のあり方を変えています。今後は、送電線につながずに、自家消費を主としたオフグリッドへの転換が急速に進むと予測されます。買取制度に頼らず、災害時でも電気を確保できる独立型太陽光発電の基礎を学び、生活の中で実用可能なシステムを自らの手で組み立てます。さらに、「貯めて使う」という運用で要となる中古バッテリーの再生技術も学びます。小さいながらもエネルギーが自立できるシステムを、被災地である野田村で製作することは、震災の教訓を活かすという点で大きな意義を持っています。（希望者は有償にて持ち帰り可）



屋根貸し制度を野田村に！

現在、多くの自治体が屋根貸し制度を導入し、太陽光発電の普及を進めています。特に宮城県では、災害公営住宅の屋根を活用しており、多くの参加者を巻き込むことで、復興を協同で乗り切ることを目指しています。本講義では、野田村ならではの屋根貸し制度を考えていきます。だらすご発電所で資金を集めた市民ファンドの手法を、屋根貸し制度にも活用することで、村民の負担は抑えられ、村の自然エネルギー生産者を増やし、つなげます。自然エネルギーを基盤とする身の丈に合った村づくりにつなげる企画・提案を、実現方法も含めてこの講座からつくりあげましょう。



野田の 歴史を知る

江戸時代末期、北三陸地方で起きた「三閉伊（さんへい）一揆」。自らの生命と暮らしを守るため、苦境の中から民衆が力を合わせ立ち上がり、近代史上唯一勝利を勝ち取ったこの百姓一揆を知ることで、地域づくりや市民力のヒントを学びます。



被災の爪痕と 復興の現状

震災から5年が経過し、今春完成した「野田バイオマス発電所」や、村内に設置された太陽光発電による充電ステーションなど、村内の自然エネルギー導入が進みつつあります。こうした野田村の復興の現場をめぐり、現状を見つめ、自らができることを考えます。

